

# 物性研だより

第31卷  
第4号

1991年11月

## 目 次

○ 共同利用研究所と大学院 .....	斯波 弘行	1
物性研究所談話会 .....		4
物性研ニュース		
○ 人事異動 .....		7
○ 平成3年度 物性研究所協議会委員名簿 .....		8
○ 平成3年度 後期短期研究会一覧 .....		9
○ 平成3年度 後期外来研究員一覧 .....		10
○ 平成4年度 前期共同利用の公募 .....		42
○ テクニカル・レポート 新刊リスト .....		61
編集後記		

東京大学物性研究所

ISSN 0385-9843

## 共同利用研究所と大学院

東京工業大学 斯波弘行

筆者は2年前の1989年9月物性研から現在の東京工業大学へ移った。「研究所」から「学部」へ移り、東京工業大学の大学院充実に力を注ごうと思って努力している矢先、困った事が生じた。それは東京大学理学部の「学院化」の方策の一つとして、物理学専攻の大学院定員の「大増員」が行なわれるらしく（らしいというのは概算要求で認められたとの「うわさ」である。日本の財政システムではこれはうわさでなく確実なことと考えるべきであろう），その余波は昨年から始まっている。東大の物理学専攻の修士定員は、私が物性研を去るときには65名だったと記憶するが、昨年は90名、そして今度は何と140名にするというのである。東京にある大学の一つとして東京工業大学（物理学専攻修学生定員は約30名）も、多くのdisturbanceを既に受け、またそれが今後強まることが予想され、苦慮している。

今回の「大増員」の定員のかなりの部分は、「全国共同利用研究所」として設立された物性研と核研が修士の学生定員を理学部と同じ数にする為に起こっているとのことである。つまり、このことは、定員という観点から見れば、「全国共同利用研究所」である物性研が理学部と同じように教育に力を入れると宣言したことになる。（研究所は学部定員がないから、粗っぽく言えば、 $140 - 65 = 75$ （名）という数は、外部の大学から学生をとるということであり、修学生定員30名の東京工業大学にとってのdisturbanceはご理解頂けるであろう。）そもそも、共同利用研究所の大学院はどうあるべきか、はむずかしい問題であって、今迄もいろいろな議論があった。しかし、「学部」と同じにするのがいいという人は極めて少数であったと思う。従って、この「大増員」は「共同利用研究所」としての「物性研」設立の主旨からの大幅な変更と見るべきである。（教育と同時に共同利用の方は前と変わりなくやるから問題ないと、所員の方々は軽く考えているかもしれないが、長期的には多分そんな訳にはいかないだろう。）

そこで、今回の定員増について問題提起をしたい。事の性質上、最近の物性研のあり方全体への私の疑問ともつながってくる。そもそも、共同利用研究所は一体何故存在し、どこが学部と違うのであろうか？また、物性研は一体何を目指そうとしているのであろうか？理学部、工学部と違ひがないなら、研究所は要らないという声がいざれ起こるであろう。

昔話になるが、今から20年近く前の物性研は外部の者にとって「大人の世界」であった。私自身芳田、吉森両先生の所に共同利用で短期間滞在させて頂いた経験があるが、大学院生は少なく、静かで、皆が研究に集中していることを実感し「学部」との違いを体験した。また、ISSPテクニカルレポート（当時はA4版であった）が手に入ると一生懸命読みたくなる研究レベルの高さがあった。1974年から1989年まで私自身が物性研に籍を置いたので責任の一部は私もあるが、現在の物性研は、IBM Yorktown Heightsや日本の民間の基礎研究所はもとより、昔の物性研と比べても

ずっと「学部化」しているように見える。この「学部化」の流れの中に今回の「大増員」がある、と私は見ている。

物性研は全国共同利用研究所として設立され、他では出来ないような研究を行うことが要請され、また、他大学の研究者と協力して日本の研究のレベルを上げることが要請され、その故にこそ、十分とは言えなくとも、「学部」からみれば格段の財政的サポートを政府から受けてきたのである。この要請のため、いくつかの制約もついている。その一つが大学院生数の制限である。助手の任期制もそうであった。（後者は前にも記した通り<sup>1)</sup>「物性研の物性物理のコミュニティへの最大の寄与」と私は思っている。物性研で助手を経験し、今各地の大学を中心になって活躍している方々がいかに沢山いることか。物性研の助手の方々もこの点は胸を張っていいのではないか）しかし、約5年位前から、物性研の所員からの大学院生増への要求が強まってきた。このことが今回の「大幅員」の背景にある。

物性研は、34年前、全国の研究者の要望によって作られ、場所としては偶々東大に附置された研究所である。設立後30年以上経って、いま物性研は重大な岐路に立っていると感ずる。<sup>1)</sup> 30年も経つと、すべての組織体がそうであるように、研究所もまた「研究所の生理」の帰結として「存在自体が自己目的化」してくる危険がある。実際、物性研の場合、設立期の所員は居なくなり、既に2代目、3代目に入っている。しかも（実は私自身もその一例なのだから責任があるが）内部昇格を繰り返し、更に、物性研で助手を勤め、余り時を経ずして、所員としてもどった人もかなり居るのが現状である。人事を含めて「方針決定」をしている所員会の構成員の状況がこのように変わっているわけである。これらの相乗効果が「存在自体の自己目的化」をもたらす危険をはらんでいることは明かだろう。

物性研の外ではこの流れをみて、その将来に対して悲観的な声がある。あるいはその見方が正しいのかもしれない。しかし、物性研は過去に重要な役割を果してきたし、国際的に見ても、物性研は外国で研究所をつくる時の一つのモデルにもなってきたのである。そこで所員の方々にお願いしたいのは、是非「研究所」でしか出来ないことは何か、を真剣に考えて頂きたいということである。「学部」には「学部」の制約があって出来ないことが沢山あると私自身感じている。もし物性研の所員が大学院教育をしたいのならば、私のように学部に移ってやったらいいではないか。「東大」の附置研究所である一面を利用し、他面で「共同利用研」のカンバンを利用し、「学部並」のことをするのでは近い将来その存在理由を問われることになり、六本木キャンパスに目を付けた一部勢力に利用されることになるだろう。また、他大学にいる研究者からの支持を失う恐れだってある。物性研は共同利用研究所でしか出来ないこと（研究内容、研究レベル、研究スタイル）を目指すべきではないか、と申し上げたい。この方向を追求するのが「将来計画」検討の目的でなければならないと私は考える。

以上、やや率直すぎたかも知れないが、私の疑問、批判を述べた。外部からの物性研への声が余

り聞こえない、と物性研の所員がいうことをよく聞く。声がないのではなく「声なき声」の中に含まれているものを感じ取る姿勢に欠けているのだと私は思っているが、<sup>2)</sup>「物性研だより」の編集後記に、しばしば、「ご意見をお寄せ下さい」と書いてあるのを思いだし、はっきりした意見を出して議論する時期に来ていると思い、あえて投稿した次第である。所員や他大学の方々のご意見を「物性研だより」で読ませて頂きたいと思っている。

- 1) 「物性研だより」第30巻 第4号（1990年11月）p.1 ここには圧縮した表現で物性研のことを書いた。あわせて再読していただけると幸いである。
- 2) [校正の際の追加] 実は最近物性研創立25周年記念シンポジウム「物性研究の将来」（1982年12月）のパンフレットを見出し、9年前どのようなことが物性研に対する期待として表明されていたかを再発見した。特に久保先生の「まとめ」は、この9年間の物性研と重ね合わせてみると、はっとさせられるものがある。このように外の声はないどころか、物性研の過去の出版物の中にあるのである。

## 物性研究所談話会

日 時 1991年9月19日(木)午後4時～5時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 Prof. R.A. Stradling

(所属) (Blackett Laboratory, Imperial College, London, UK)

題 目 High Pressure Studies of Impurities in III-V Semiconductors

要 旨:

Semiconductors with conduction band minima located at the centre of the zone generally have impurity levels resonant with the conduction band in addition to the normal shallow donors. These resonant levels can be made to emerge into the gap at pressures much less than those required to cause band crossing.

The movement of the bands and impurity levels as a function of pressure qualitatively very similar to that found on alloying one binary compound with another. It was subsequently realised that certain of the pressure induced levels could show very pronounced metastability.

The origin of the metastability (so called DX behaviour) and the charge of the relaxed state have attracted intense interest and the model currently gaining the most support involves large relaxation and negative-U (eg. Chadi & Chang, 1989).

The seminar will review magnet-optical studies of pressure induced levels in high-purity InSb and GaAs and Shubnikov-de Haas measurements in heavily doped GaAs. For the first time diamond anvil cell measurements have been performed in far-infrared magneto-optical measurements. All the shallow donors in GaAs show very similar behaviour to that found with InSb. The same impurity forms three of level; the normal shallow donor states, deep non-metastable levels of A<sub>1</sub> character and DX-like levels.

DX levels in GaAs will trap out the conduction electrons when the carrier concentration is high. The maximum carrier concentration achievable before the DX centres cause saturation is  $5 \times 10^{12} \text{ cm}^{-2}$  in delta-doped material. High pressure measurements with delta doped samples are carried out to derive the subband mobilities as a function of pressure and to investigate the charge state of the DX centres.

日 時 1991年10月7日（月）午後4時～5時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 E. Dwight Adams

(所属) (フロリダ大学 物理学科 教授)

題 目 Research at the Florida Microkelvin Laboratory

要 旨：

The talk gives the construction of the laboratory (including 7 min. video) and various topics of interests in the group.

日 時 1991年10月15日（火）午後2時～3時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 Dr. J. F. Dillon, Jr

(所属) AT&T Bell Laboratories

Murray Hill, USA

題 目 Magneto-optical Observation of Broken Time Reversal Symmetry in Cuprate Superconductors-Experimental Status

要 旨：

Recent "anyon" theories of high temperature superconductivity in layer structure materials suggested that at some temperature  $T_{\text{TP}} > T_{\text{c}}$  there is a symmetry breaking transition below which these materials may be in either of two distinct states related to each other by time reversal. Magneto-optical experiments were undertaken to probe the time reversal symmetry of these materials. Using a new technique to separate out the non-reciprocal part of the polar Kerr ellipticity, we are now measuring circular dichroism on reflection in a variety of cuprate superconductors. The experimental technique and these new data will be summarized. We will also discuss a recent exchange of samples with Spielman et al. at Stanford.

日 時 1991年10月18日（金）午後4時～5時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 Dr. G. Aeppli

(所属) (Risø National Laboratory, Denmark)

題 目 Magnetic Fluctuations in  $\text{La}_{2-x}(\text{Ba}_1\text{Sr})_x\text{CuO}_4$

要 旨 : Neutron scattering measurements relating to the spin waves, Fermi surface, marginal Fermi liquid behavior, and superconductivity in  $\text{La}_{2-x}(\text{Ba}_1\text{Sr})_x\text{CuO}_4$  are described.

日 時 1991年10月22日（火）午後4時～5時

場 所 物性研究所 Q棟1階 講義室

講 師 Z. X. Shen

(所属) Stanford Electronics Laboratory, Stanford University, Stanford,

題 目 Angle-Resolved Photoemission Studies of  $\text{Bi}_2\text{Sr}_2\text{CaCu}_2\text{O}_{8+\delta}$

要 旨 :

We discuss our recent high-resolution angle-resolved photoemission studies of metallic Bi2212 with varied oxygen content. From the normal state data, we found that the experimental Fermi surface is very consistent with the band Fermi surface, which implies that the Luttinger theorem is obeyed despite the compelling evidence of correlation effects. The doping behavior of Bi2212 compound could be well described by the renormalized band approaches. From the superconducting state data, we observed following interesting changes in the spectral weight function as the sample went through the superconducting transition: (i) Spectral changes between the normal state and the superconducting state are very different along  $\Gamma$ -M and  $\Gamma$ -M direction. Normalizing the spectra to the same background, we find that the photoemission spectral weight below  $T_c$  is gained along the  $\Gamma$ -X direction, but is lost along  $\Gamma$ -M direction. (ii) A dip structure near -90 meV is observed in the superconducting spectral weight function of doping. We will also discuss various possible explanations of these data, and the problems associated with them. We will also detail our recent observation of the superconducting gap anisotropy in the a-b plane.

## 人事異動

(休職等)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
極限物性部門 極限レーザー	助手 遠藤 彰	3. 9. 29	休職期間更新 (4.9.28まで)
理論部門	助手 小杉 正男	3. 9. 29	休職期間更新 (4.9.28まで)
凝縮系物性部門	教務職員 吉田 美穂子	3. 10. 1	休職期間更新 (4.9.30まで)

(復職)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
凝縮系物性部門	助手 爲ヶ井 強	3. 9. 29	復職

(昇任)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
軌道放射性部門	教授 神谷 幸秀	3. 10. 1	高エネルギー物理学研究所助教授より
極限物性部門 超強磁場	助手 野尻 浩之	3. 11. 1	神戸大学理学部教務職員より

(配置換)

所 属	職・氏名	発令日	異動内容
経理課	用度掛 山田 一男	3. 11. 1	工学部経理課より

## 平成 3 年度 物性研究所協議会委員名簿

平成 3 年 7 月 9 日現在

所 属	職 名	氏 名	任 期	推 薦 母 体
東北大 (理)	教 授	遠 藤 康 夫	H 2.9.1 ~ H 4.8.31	物 研 連
学習院大 (理)	"	川 路 紳 治 (再)	"	"
阪 大 (理)	"	櫛 田 孝 司	"	"
東北大 (金研)	"	立 木 昌	"	"
阪 大 (理)	"	都 福 仁	"	"
京 大 (理)	"	廣 田 裕 (再)	"	化 研 連
東北大 (金研)	"	鈴 木 謙 爾	"	東北大・金研
高エネルギー 物理学研究所	"	岩 崎 博 (再)	"	高 工 研
東 大 (工)	"	国 府 田 隆 夫 (再)	"	東 大 · 工
東 大 (理)	"	鈴 木 增 雄	"	東 大 · 理
"	"	井 野 正 三 (再)	"	"
"	"	近 藤 保 (再)	"	"
分子科学研究所	"	諸 熊 奎 治	"	分 子 研
京 大 (基研)	"	長 岡 洋 介 (再)	"	京大・基研
東大 (物性研)	"	村 田 好 正	"	所 員 會 · 所 內 委 員
"	"	山 田 安 定	"	"
"	"	安 岡 弘 志	"	"
"	"	松 岡 正 浩	H 3.7.9 ~ H 4.8.31	"
東 大 (工)	学部長	菅 野 卓 雄		官 職 指 定 委 員
" (理)	"	久 城 育 夫		"
" (核研)	所 長	山 崎 敏 光		"
" (事務局)	局 長	佐 藤 次 郎		"

## 平成 3 年度 後期 短期研究会一覧

研 究 会 名	開 催 期 日	参 加 予定人員	提 案 者
エピタキシー過程における原子ダメージス	11月11日 11月12日 (2日間)	80名	○井 野 正 三 (東大・理) 川 辺 光 央 (筑波大・物質工) 大 矢 銀一郎 (宇都宮大・工)
	13:00~		大 塚 直 夫 (青学大・理工)
単色低速陽電子ビームを用いる物性研究	1月13日 1月14日 (2日間)	30名	○伊 藤 泰 男 (東大・原総セ) 末 岡 修 (山口大・工) 村 田 好 正 (東大・物性研) 小 森 文 夫 (東大・物性研)

○印は提案代表者

## 平成3年度 後期 外来研究員一覧

### 嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
北 大 (理) 助 教 授	榎 原 俊 郎	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・2回)	メガガウス超強磁場下における磁化測定の精密化	後 藤
京 大 (理) 助 教 授	西 嶋 光 昭	12/19 ~ 12/20 3/ 9 ~ 3/10	金属表面に吸着した分子のダイナミックス	村 田
広 島 大 (総 合) 教 授	永 井 克 彦	11/25 ~ 11/29	強磁場中の量子流体	石 本
北 教 大 (教 育) 教 授	高 柳 滋	11/11 ~ 11/16 3/ 9 ~ 3/14	低温高圧下における比熱測定装置の開発	毛 利
岐 阜 大 (工) 教 授	仁 田 昌 二	11/12 ~ 11/14 3/12 ~ 3/14	テトラヘドラル系アモルファス半導体の物性	森 垣
岐 阜 大 (工) 教 授	嶋 川 晃 一	11/14 ~ 11/16 3/12 ~ 3/14	アモルファスグラファイト並びにシリコンの低温物性	"
慶 應 大 (理 工) 教 授	米 沢 富美子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	テトラヘドラル系アモルファス半導体の電子状態	"
東 海 大 (理) 教 授	木 村 豊	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	アモルファスシリコンにおける構造欠陥の電子状態	"
筑 波 大 (物理学系) 助 教 授	河 野 公 俊	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (日帰り 4回)	金属薄膜・多層膜における量子輸送の研究	家
東 邦 大 (理) 教 授	小 林 速 男	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	分子性電気伝導体の合成と評価	加 藤

## 嘱託研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
北大 (工) 助教授	毛利 哲夫	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・2回)	合金状態図の第1原理計算	寺倉
九大 (理) 教 授	川崎 恭治	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	固体表面におけるダイナミックス	"
九大 (教養) 教 授	中山 正敏	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・2回)	固体表面の光電子スペクトルの計算	"
奈良県立医大 助教授	赤井 久純	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・2回)	電子論と分子動力学の結合	"
姫路工大 (理) 助教授	石井 靖	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・2回)	強相関系の電子状態	"
金属材料技術研究所 主任研究官	小口 多美夫	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	電子状態計算手法の開発	"
東北大 (理) 助 手	鈴木 章二	12/2 ~ 12/14 1/16 ~ 1/18	アンジュレータ放射の偏光測定	SOR 柿崎
東北大 (科研) 助 手	湯上 浩雄	10/17 ~ 10/19 12/12 ~ 12/14	"	"
群馬大 (教育) 教 授	菅原 英直	10/17 ~ 10/18 12/12 ~ 12/13	"	"
阪大 (基礎工) 教 授	菅 滋正	10/17 ~ 10/18 12/12 ~ 12/13	"	"
東大 (核研) 助 手	武藤 正文	10/14 ~ 12/14 上記期間中 (週1日)	新型光源の設計	"

留学研究員

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東 北 大 ( 理 ) D. C. 2	小笠原 春 彦	10/ 1 ~ 3/31	希土類化合物の高エネルギー分光における多重項の理論	小 谷
東 北 大 ( 理 ) D. C. 2	清 野 泰 宏	10/ 1 ~ 3/31	酸化物高温超伝導体の高エネルギー分光理論	"
九 大 ( 理 ) D. C. 3	井 上 耕一郎	10/ 1 ~ 3/31	半導体表面のARUPS スペクトルの計算	寺 倉

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東北大 (理) 教 授	後藤武生	2/3～2/8	半導体微結晶における励起子の強磁場効果	三浦
東北大 (理) M. C. 1	田中仁	2/3～2/8	"	"
埼玉大 (工) 教 授	山田興治	10/1～3/31 上記期間中 (週2日)	半導体内ホットキャリアの強磁場物性	"
埼玉大 (工) 助 手	鎌田憲彦	10/1～3/31 上記期間中 (週2日)	"	"
埼玉大 (理工学) D. C. 1	二川英樹	10/1～3/31 上記期間中 (週2日)	"	"
埼玉大 (理工学) M. C. 1	小綿明	10/1～3/31 上記期間中 (週2日)	"	"
東大 (教養) 助 手	長田俊人	10/1～3/31 上記期間中 (週2日)	低次元電子系の強磁場下電子状態	"
東大 (先端研) 教 授	榎裕之	10/1～3/31 上記期間中 (月3日)	強磁場を用いた低次元デバイスに関する研究	"
東大 (先端研) 助 手	永宗靖	10/1～3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
東大 (生研) 助 手	松末俊夫	10/1～3/31 上記期間中 (月3日)	"	"
東大 (生研) 技 官	野田武司	10/1～3/31 上記期間中 (月3日)	"	"

一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 ( 工 ) D. C. 2	菅 原 宏 治	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	強磁場を用いた低次元デバイスに関する研究	三 浦
東 大 ( 工 ) D. C. 1	野 口 裕 泰	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
新技術事業団 研究員	角 屋 豊	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
新技術事業団 研究員	中 村 有 水	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
新技術事業団 研究員	三 矢 伸 司	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
山 梨 大 (教 育) 助 手	渡 辺 勝 儀	1/27 ~ 1/30	超強磁場下におけるBiI <sub>3</sub> 薄膜結晶の バンド端効起子の磁気光効果	"
阪 大 (基礎工) 教 授	天 谷 喜 一	12/16 ~ 12/18	吸着酸素分子の強磁場下磁化過程	"
阪 大 (基礎工) D. C. 3	熊 安 敏	12/16 ~ 12/18	"	"
阪 大 (基礎工) 教 授	西 田 良 男	11/18 ~ 11/22	合成ダイヤモンドのカラーセンターにおけるゼロフォノン線のゼーマン効果	"
阪 大 (基礎工) 助 手	半 沢 弘 昌	11/18 ~ 11/22	"	"
姫 路 工 大 ( 理 ) 助 教 授	嶽 山 正二郎	11/ 4 ~ 11/ 8	磁性半導体の強磁場下光過程	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
姫路工大 (理) 教 授	高木 芳 弘	1/18 ~ 1/21	磁性半導体の強磁場下光過程	三浦
姫路工大 (理) 助 手	足立 智	11/4 ~ 11/8	" "	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	中尾 公一	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	パルス超強磁場による高温超電導体 の $B_{c2}$ 測定	"
北大 (理) 助 手	網塚 浩	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4泊 5日・1回)	強磁場におけるヘビーフェルミオン 化合物の磁気転移	後藤
北大 (理) M. C. 2	杉本 大介	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4泊 5日・1回)	" "	"
北大 (理) M. C. 2	三田村 裕幸	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4泊 5日・1回)	" "	"
東北大 (工) D. C. 2	蔣 德煊	12/17 ~ 12/20	Fe-La-Alアモルファス合金の強磁場 磁性と圧力効果	"
東北大 (工) D. C. 1	村田 和広	12/3 ~ 12/6	ラーベス相化合物のメタ磁性	"
東北大 (工) M. C. 2	服部 靖匡	11/5 ~ 11/8	準結晶およびアモルファス合金の低 温磁性	"
東北大 (工) M. C. 1	大橋 伸夫	11/12 ~ 11/15	鉄系水素吸蔵合金の強磁場物性	"
東北大 (工) M. C. 1	松永 温	11/12 ~ 11/15	純Feに近いアモルファス合金の磁性	"

## 一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
お茶の水女子大 (理) 教 授	伊 藤 厚 子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	交換相互作用競合系の磁化測定	後 藤
お茶の水女子大 (理) M. C. 2	川 野 はづき	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 1	岩 井 圭 子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
お茶の水女子大 (理) M. C. 1	大 山 千由紀	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (14日)	"	"
横浜国立大 (工) 教 授	山 口 益 弘	10/ 1 ~ 10/14 12/ 1 ~ 12/14 2/ 1 ~ 2/14	希土類系金属間化合物・水素化物の 高磁界磁化と磁歪	"
横浜国立大 (工) M. C. 2	浜 村 秀 行	10/ 1 ~ 10/14 12/ 1 ~ 12/14 2/ 1 ~ 2/14	"	"
横浜国立大 (工) 研究 生	バルタシェビチ ミハイル	10/ 1 ~ 10/14 12/ 1 ~ 12/14 2/ 1 ~ 2/14	"	"
福 井 大 (工) 助 教 授	網 代 芳 民	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (4泊 5日・1回)	Haldane 系の磁場中挙動	"
京 大 (理) M. C. 2	森 直 樹	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (4泊 5日・1回)	"	"
福 井 大 (工) M. C. 2	土 居 光 代	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (4泊 5日・1回)	"	"
京 大 (理) 助 手	吉 村 一 良	11/11 ~ 11/18	YbInCu <sub>4</sub> 系の強制体積磁歪と置換に 伴うシステムティックス	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 貢
京 大 ( 理 ) M. C. 2	柴 田 智 彦	11/11 ~ 11/18	YbInCu <sub>4</sub> 系の強制体積磁歪と置換に伴うシステムティックス	後 藤
京 大 ( 工 ) 助 手	和 田 裕 文	10/28 ~ 11/ 2	反強磁性金属間化合物の高磁場磁化過程	"
京 大 ( 工 ) 助 手	中 村 裕 之	10/28 ~ 11/ 2	"	"
京 大 ( 工 ) M. C. 1	前 田 尚 史	10/28 ~ 11/ 2	"	"
東京医大 教 授	遠 藤 慶 三	11/ 7 ~ 12/26 上記期間中 (週 1 日)	C 14 型ラーベス相化合物の強磁場によるメタ磁性転移と磁歪	"
東京医大 講 師	大 岩 潔	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
横浜国大 ( 工 ) 助 手	武 田 淳	12/ 1 ~ 12/14	有機フォトクロミック材料フルギドの光励起状態と緩和のダイナミクス	松 岡
横浜国大 ( 工 ) M. C. 1	田 湯 哲 朗	12/ 1 ~ 12/14	"	"
京 大 ( 理 ) 教 授	加 藤 利 三	12/ 9 ~ 12/11	インジウム・ハライド結晶における励起子の緩和過程	"
京 大 ( 理 ) D. C. 3	芦 田 昌 明	12/ 9 ~ 12/14	"	"
京 大 ( 理 ) M. C. 2	太 田 治	12/ 9 ~ 12/14	"	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
宇都宮大 (教養) 助 教 授	江 川 千佳司	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (日帰り 2回)	表面超格子構造に関する研究	村 田
東京学芸大 (教育) 助 教 授	並 河 一 道	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 3 日)	低エネルギー モット散乱による電子 スピニ解析器の試作	"
山梨大 (教育) 助 教 授	川 村 隆 明	10/14 ~ 10/19	多重散乱法による表面構造の決定	"
豊橋技科大 助 教 授	並 木 章	12/ 1 ~ 12/ 2	表面反応動的過程に関する分子線・ イオンビームを用いた研究	"
鳥取大 (教養) 助 教 授	石 井 晃	3/ 1 ~ 3/10	ポジトロニウム形成を利用した表面 状態測定	"
筑 波 大 (物質工学) 講 師	中 村 潤 児	3/17 ~ 3/31	Ni単結晶表面上の炭素の微視的反応 挙動	田 中
電 通 大 助 教 授	田 中 勝 己	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	単結晶表面における光化学反応	"
電 通 大 M. C. 1	羽根木 勲	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
岡 山 大 (自然科学) 助 手	黒 田 泰 重	11/29 ~ 12/19	酸化亜鉛表面における水の二次元凝 縮	"
岡 山 大 (理) M. C. 2	國 定 照 房	10/ 1 ~ 12/25	"	"
東 北 大 (金 研) 助 教 授	槇 詰 富 博	10/14 ~ 10/18	低温STMの開発	小 森

## 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (理) D. C. 2	齋 久実	10/14 ~ 10/18	低温STMの開発	小森
東北大 (金研) 助手	渡辺 洋右	10/14 ~ 10/16	有機超伝導体の表面構造の研究	"
東北大 (金研) 助手	王 向東	12/ 5 ~ 12/ 9	低温STMによるSi(111)上のアルカリ吸着の研究	"
東大 (教養) 助教授	和田信雄	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週4日)	Restricted Geometry 中ヘリウム	石本
東工大 (理) 助教授	奥田雄一	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	超低温における Macroscopic Quantum Tunneling	"
東工大 (理工学) M. C. 2	西山英利	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週4日)	"	"
金沢大 (理) M. C. 1	小池良浩	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	S。金属の核スピン・オーダーの研究	"
金沢大 (理) M. C. 1	田所三徳	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (6泊 7日・1回)	"	"
京大 (理) 教 授	石黒武彦	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	金属性ポリアセチレンの超低温下電気伝導	"
京大 7(理) 助 手	野上由夫	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	"	"
京大 (理) D. C. 1	金子 浩	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	"	"

## 一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
京 大 (理) 助 手	小 島 憲 道	11/11 ~ 11/16	低温高圧下における三次元Au混合原子価錯体 $M_2Au_2I_6$ (M=Rb, Cs)の単結晶電気伝導度とその異方性	毛 利
京 大 (理) M. C. 2	田 中 淳	11/11 ~ 11/16	"	"
島 根 大 (教 育) 助 教 授	秋 重 幸 邦	11/11 ~ 11/16	低温高圧下における酸化物強誘電体の物性	"
九州工大 (情報工学) 教 授	對 島 國 郎	10/28 ~ 11/ 3	Floating Zone 法による $Bi_2Sr_2CaCu_2O_x$ 単結晶の高圧下物性評価	"
九州工大 (情報工学) 助 手	渡 辺 直 寛	10/14 ~ 10/20	"	"
熊 本 大 (教 養) 講 師	上 床 美 也	10/ 3 ~ 10/10	高濃度近藤化合物 $CePtSi_2$ の高圧下での物性測定	"
熊 本 大 (理) M. C. 2	沖 田 光	10/ 3 ~ 10/10	"	"
北海道東海大 教 授	四 方 周 輔	3/16 ~ 3/22	高圧下における酸化物超伝導体の輸送現象	"
東北学院大 (工) 教 授	鹿 又 武	3/ 9 ~ 3/12	擬2次元層状化合物の圧縮率測定	"
東北学院大 (工) M. C. 2	長 谷 部 雄 一	3/ 9 ~ 3/15	"	"
電 総 研 研 究 員	伊 賀 文 俊	10/14 ~ 10/19 11/25 ~ 11/30 1/20 ~ 1/25 2/24 ~ 2/29	希土類価数搖動物質のエネルギーギヤップ状態	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
化 技 研 主任研究官	角 館 洋 三	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 5 日)	低温高圧下における炭素クラスタ結晶の電気的性質	毛 利
国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研 主任研究員	宮 武 孝 之	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	高圧下での酸化物超電導体の研究	"
国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研 研究員	小 菅 道 和	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	"	"
北 大 (理) 助 教 授	河 村 雄 行	10/21 ~ 10/25	超高压合成酸化物ガラスのキャラクタリゼーション	八 木
北 大 (理) D. C. 1	澤 口 直 哉	12/16 ~ 12/20	"	"
北 大 (理) M. C. 1	舟 越 賢 一	10/21 ~ 10/25	"	"
室蘭工大 (工) 教 授	城 谷 一 民	10/20 ~ 10/31	金属リン化物超伝導体の合成と電子物性	"
室蘭工大 (工) M. C. 1	市 橋 信 春	10/20 ~ 10/31	"	"
東北大 (金研) 教 授	小 松 啓	11/18 ~ 11/22	高圧力下での溶液相からの結晶成長	"
東北大 (金研) 助 手	宮 下 哲	11/18 ~ 11/22	"	"
茶の水女子大 (理) 助 教 授	浜 谷 望	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	MnF <sub>2</sub> の圧力誘起相転移機構	"

## 一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所員
岐 阜 大 ( 工 ) 助 手	佐々木 重 雄	12/16 ~ 12/22	分子性結晶の超高压光散乱	八 木
岐 阜 大 ( 工 ) M. C. 2	村 嶋 寛 志	12/16 ~ 12/22	"	"
愛 媛 大 ( 理 ) 助 教 授	入 船 徹 男	3/12 ~ 3/19	超高压下でのケイ酸塩多成分系相平衡	"
愛 媛 大 ( 理 ) M. C. 1	金 本 征 代	11/25 ~ 12/ 7	"	"
学習院大 ( 理 ) 教 授	赤 荻 正 樹	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	鉄-マグネシウム珪酸塩の高温高压合成	"
学習院大 ( 理 ) 助 手	鈴 木 敏 弘	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	金属-ケイ酸塩の分離過程	"
自 治 医 大 教 授	青 野 修	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (1泊 2日・1回)	膜の諸性質の理論	伊 藤
東 工 大 ( 理 ) 助 手	大 熊 哲	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	アモルファス半導体・金属系の金属非金属転移	森 垣
岐 阜 大 ( 工 ) 助 教 授	松 下 栄 子	11/28 ~ 11/30	半導体物性に関する研究	"
岐 阜 大 ( 工 ) 助 手	荻 原 千 聰	10/24 ~ 10/26	光CVD 法によるアモルファスシリコンの作製と物性	"
岐 阜 大 ( 工 ) 助 手	伊 藤 貴 司	10/24 ~ 10/26	アモルファス半導体超格子の物性	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
岐 阜 大 ( 工 ) M. C. 2	鈴 木 久 貴	10/24 ~ 10/26	テトラヘドロラ系アモルファス半導体の物性	森 垣
岐 阜 大 ( 工 ) M. C. 2	横 山 真 也	10/24 ~ 10/26	"	"
岐 阜 大 ( 工 ) M. C. 1	内 田 貴 之	10/24 ~ 10/26	アモルファス半導体超格子薄膜の光学的性質に関する研究	"
岐 阜 大 ( 工 ) M. C. 1	広 瀬 秀 樹	10/24 ~ 10/26	"	"
岐 阜 大 ( 工 ) M. C. 1	日 下 部 信 二	10/24 ~ 10/26	光熱偏光分光法(PDS)を用いたテトラヘドロラ系アモルファス半導体の光学的性質に関する研究	"
岐 阜 大 ( 工 ) M. C. 1	南 出 隆 広	10/24 ~ 10/26	"	"
阪 大 (基礎工) 教 授	西 田 良 男	12/ 2 ~ 12/ 7	合成ダイヤモンドのカラーセンターの E S R による構造決定	"
阪 大 (基礎工) M. C. 1	足 立 祐 介	12/ 2 ~ 12/ 7	"	"
広 島 大 ( 工 ) 助 教 授	松 村 英 樹	10/ 1 ~ 10/ 8	触媒CVD法により作られるアモルファス・シリコンの特性評価	"
京都立科技大 教 授	藤 田 安 彦	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月2日)	水素化アモルファスシリコン薄膜の光物性	"
東京都立科技大 M. C. 2	嘉 代 雄	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月2日)	"	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
富山県立大 ( 工 ) 助 手	横道 治男	11/ 5 ~ 11/ 8	アモルファスシリコンにおける電子 核二重共鳴	森 埠
法 政 大 ( 工 ) 助 教 授	浜 中 廣 見	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	PDS 法による $A_s-S/A_s-S_e$ 系多層膜 の光誘起現象の測定	"
東京高専 助 教 授	谷田部 喜久雄	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	アモルファスシリコン系変調構造膜 の光電導	"
東 大 ( 工 ) 助 教 授	前 田 康 二	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	非金属結晶中の拡張欠陥の諸物性	竹 内
東 大 ( 工 ) 講 師	木 村 薫	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	準結晶の構造と物性に関する研究	"
島 根 大 (教 育) 教 授	神志那 良 雄	11/11 ~ 11/13	準結晶の構造と物性	"
青山学院大 (理 工) 助 手	塩 谷 百 合	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	置換型 2 元合金中の電子状態の数値 計算	"
東京理科大 ( 理 ) 教 授	津 田 惟 雄	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	高温超伝導体のトンネル効果	"
東京理科大 ( 理 ) 助 手	嶋 田 大 介	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
東京理科大 ( 理 ) D. C. 2	宮 川 宣 明	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	"	"
東京理科大 ( 理 ) 教 授	津 田 惟 雄	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	準結晶の物性	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東京理科大 (理) M. C. 2	内 藤 宣 正	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週5日)	準結晶の物性	竹 内
東京理科大 (理) M. C. 2	吉 岡 明 紀	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週5日)	"	"
東京理科大 (理) M. C. 1	秋 山 博 文	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週5日)	"	"
東京理科大 (理) M. C. 1	越 川 尚 清	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週5日)	"	"
東 洋 大 (工) 講 師	渋 谷 忠 治	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	準結晶合金の作成と物性測定	"
東 北 大 (金 研) 助 手	高 梨 弘 育	12/ 2 ~ 12/ 7	Pt系人工格子のNMR	安 岡
埼 玉 大 (教 育) 助 教 授	津 田 俊 信	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週2日)	酸化物高温超伝導体およびその関連 物質の核磁気共鳴	"
千 葉 大 (理) 助 教 授	伊 藤 正 行	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	遷移金属酸化物のNMR	"
福 井 大 (工) 教 授	目 片 守	12/19 ~ 12/21	三角格子反強磁性体のNMR	"
福 井 大 (工) M. C. 2	島 村 和 典	12/19 ~ 12/21	"	"
福 井 大 (工) M. C. 2	高 島 浩 昭	12/19 ~ 12/21	"	"

## 一 般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
京 大 ( 工 ) 助 手	中 村 裕 之	11/25 ~ 12/ 1	ヘリウム3温度域のNMR	安 岡
京 大 ( 工 ) M. C. 1	伊 藤 和 博	11/25 ~ 12/ 1	"	"
京 大 ( 理 ) M. C. 2	加 藤 将 樹	11/25 ~ 12/ 2	$Y_2Ba_4Cu_7O_{15+\delta}$ の核磁気共鳴	"
京 大 ( 理 ) M. C. 2	上 村 卓	11/25 ~ 12/ 2	"	"
阪 大 (基礎工) 助 教 授	那 須 三 郎	11/11 ~ 11/16	鉄中炭素の電子状態	"
阪 大 (基礎工) M. C. 2	中 川 浩 行	11/11 ~ 11/16	"	"
徳 島 大 ( 工 ) 助 教 授	大 野 隆	3/ 1 ~ 3/31	超伝導酸化物のMQR・NMR	"
東京医大 講 師	大 岩 潔	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	磁性体 $Ni_2Mn_{1-x}V_xGa$ ( $0 < x \leq 0.1$ ) と $(Co_{1-y}Ni_y)_2NbSn$ ( $0 < y \leq 0.4$ ) のNMR	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 主管研究員	留 野 泉	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	NMRによる酸化物高温超電導体の 研究	"
国際超電導産業 技術研究センター 超電導工学研 究 員	町 敬 人	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	"	"
室蘭工大 ( 工 ) M. C. 2	向 井 尚 樹	10/20 ~ 10/31	低次元性金属リン化物の磁気的性質	木 下

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
明治学院大 (一般教育) 助 教 授	菅 野 忠	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	有機結晶の磁性	木 下
慶 應 大 (理 工) 非常勤講師	岩 澤 尚 子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	有機分子集合体の磁性に関する研究	"
愛 媛 大 (教 養) 教 授	宮 谷 和 雄	3/17 ~ 3/30	カルコゲン化合物の3d正孔が示す磁性と伝導性	石 川
上 智 大 (理 工) 教 授	鈴 木 皇	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 2 日)	酸化物高温超伝導体の複合置換効果の実験	"
群 馬 大 ( 工 ) 助 手	伊 藤 和 男	12/ 4 ~ 12/ 6	シリコン量子細線の低温電気伝導の研究	家
東 大 (生 研) 助 手	斎 藤 敏 夫	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 4 日)	半導体低次元電子系の電気伝導特性に関する研究	"
東 大 (生 研) 技 官	原 田 和 幸	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 4 日)	"	"
東 大 (先端研) 教 授	榎 裕 之	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	極低温強磁場中における低次元電子系の電子状態と電気伝導に関する研究	"
東 大 (先端研) 助 手	永 宗 靖	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
東 大 (生 研) 助 手	松 末 俊 夫	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
東 大 (生 研) 技 官	野 田 武 司	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 ( 工 ) D. C. 2	菅 原 宏 治	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	極低温強磁場中における低次元電子系の電子状態と電気伝導に関する研究	家
東 大 ( 工 ) D. C. 1	野 口 裕 泰	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
新技術事業団 研究員	角 屋 豊	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
新技術事業団 研究員	中 村 有 水	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
新技術事業団 研究員	三 矢 伸 司	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
熊 本 大 (教 養) 助 教 授	巨 海 玄 道	11/17 ~ 11/20	重い電子系CeInCu <sub>2</sub> の磁気抵抗効果	"
熊 本 大 ( 理 ) M. C. 2	加賀山 朋 子	11/17 ~ 11/20	"	"
東 邦 大 ( 理 ) 教 授	梶 田 晃 示	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	有機伝導体の磁気抵抗	"
東 邦 大 ( 理 ) M. C. 1	尾 白 吏	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
東 大 ( 工 ) 教 授	菊 田 惺 志	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	放射光の核共鳴散乱用結晶の作成と評価	武 居
東 大 ( 理 ) D. C. 2	永 井 隆 哉	10/10 ~ 10/20 11/10 ~ 11/20 12/10 ~ 12/20	Forsterite(Mg <sub>2</sub> SiO <sub>4</sub> ) 大型単結晶の育成	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
お茶の水女子大 (理) 助 教 授	今野 美智子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	有機伝導物質の結晶構造の研究	武 居
東 洋 大 (工) 助 教 授	勝 亦 徹	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	酸化物光学単結晶の育成	"
東 大 (工) 教 授	井 野 博 満	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	非平衡合金相の物性	物 質 開発室
東 大 (工) D. C. 3	崔 判 圭	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
東 大 (工) D. C. 1	早 稲 田 篤	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
東 大 (生 研) 助 教 授	七 尾 進	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	準結晶合金の構造研究	"
東 大 (生 研) 助 手	渡 邊 康 裕	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 3 日)	"	"
信 州 大 (理) M. C. 2	宇 井 範 彦	12/16 ~ 12/21	Al <sub>2</sub> Gd <sub>3</sub> , Gd <sub>5</sub> Si <sub>4</sub> の多結晶の合成	"
岩 手 大 (工) 助 教 授	栗 栖 牧 生	10/ 7 ~ 10/10	希土類金属間化合物の磁化率測定	電磁気 測 定
岩 手 大 (工) M. C. 2	高 橋 育	10/ 7 ~ 10/10	"	"
東 大 (工) 教 授	井 野 博 満	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 1 日)	La-Fe およびNd-Fe 液体急冷合金の 磁性	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
信 州 大 (理) 教 授	永 井 寛 之	12/16 ~ 12/21	ThMn <sub>12</sub> 型金属間化合物の磁化測定	電磁気 測 定
信 州 大 (理) M. C. 2	野 村 琢 治	12/16 ~ 12/21	"	"
名 工 大 (工) 助 教 授	坂 本 功	11/18 ~ 11/22	RGa <sub>2</sub> 希土類化合物のドハース・ファンアルフェン効果	"
広 島 大 (総 合) 助 教 授	高 畠 敏 郎	2/ 3 ~ 2/ 6	CeNi <sub>1-x</sub> Pt <sub>x</sub> Sn系の半導体から重い電子系への遷移	"
広 島 大 (生物圏) M. C. 2	岩 崎 洋	2/ 3 ~ 2/ 6	"	"
広 島 大 (生物圏) M. C. 1	中 本 剛	10/ 7 ~ 10/10	"	"
龍 谷 大 (理 工) 助 教 授	西 原 弘 訓	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	Ti <sub>x</sub> Nb <sub>1-x</sub> Se <sub>2</sub> 系の電荷密度波	"
長 野 高 専 助 教 授	藤 原 勝 幸	11/19 ~ 11/21	金属水素化物(La <sub>1-x</sub> Nd <sub>x</sub> )Co <sub>5</sub> H <sub>y</sub> の化 測定	"
高 松 高 専 助 教 授	明 神 敦 久	12/ 9 ~ 12/14	希土類化合物 (YGd) <sub>2</sub> Co <sub>14</sub> B の磁性研究	"
北 大 (工) 助 教 授	義 家 敏 正	11/11 ~ 11/16	積層欠陥四面体面の面間隔の高分解能電子顕微鏡を用いた測定	電 子 顕微鏡
北 大 (触 媒) 教 授	早 川 和 延	1/16 ~ 1/18	電子スピン計測用Au薄膜を透過した 電子線プロファイルの測定	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (金研) 助 手	寶野和博	12/10 ~ 12/11	アトムプローブによる金属間化合物の粒界偏析の研究	電子顕微鏡
東大 (工) D. C. 1	倉本繁	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月2日)	アルミニウム合金中の第二相粒子と母相との界面に関する研究	"
東大 (医) 助 手	湯本昌	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月2日)	ラット肝臓の細網線維の研究	"
長崎大 (教養) 教 授	岩永浩	11/25 ~ 11/30 1/20 ~ 1/25 3/23 ~ 3/28	セラミック・ファイバーの電顕観察	"
神戸大 (理) 助 手	久保木一浩	11/28 ~ 11/30	高温超伝導の理論的研究	福山
奈良女子大 (理) 助 手	松川宏	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊3日・1回)	酸化物高温超伝導体における磁束のピン止めの理論的研究	"
北大 (工) 特別研究員	滝沢聰	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊6日・1回)	合金相安定性の第一原理計算	寺倉
東工大 (総合理工学) 助 手	神藤欣一	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	金属間化合物の弾性定数、面欠陥エネルギーの第一原理計算	"
静岡大 (工業短大) 教 授	浅田寿生	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (1泊2日・1回)	非局所密度汎関数法による遷移金属の電子状態	"
静岡大 (工業短大) 助 教 授	星野敏春	12/ 9 ~ 12/10	KKR-グリーン関数法による金属中の不純物間相互作用エネルギーの計算	"
大阪府立大 (総合) 助 手	播磨尚朝	11/11 ~ 11/12	核四重極相互作用に関する理論的研究	"

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
金属材料技術研究所 技 官	佐々木 泰 造	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月1日)	高温超電導体の電子状態	寺 倉
東 北 大 ( 理 ) 助 教 授	萱 沼 洋 輔	11/28 ~ 11/30	内殻励起X線発光の理論	小 谷
東 北 大 ( 理 ) M. C. 2	魚 住 孝 幸	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	軽い遷移金属化合物の高エネルギー分光理論	"
東 北 大 ( 理 ) M. C. 2	前 田 健	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	酸化銅の電子状態と高エネルギー分光理論	"
岡 山 大 ( 理 ) 助 教 授	原 田 勲	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (2泊 3日・1回)	磁性体の光学的性質	"
大阪府立大 ( 工 ) 助 手	田 中 智	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	f 及びd電子系のX線発光スペクトルの理論	"
姫路工大 ( 理 ) 助 手	坂 井 徹	10/14 ~ 10/17	低次元磁性体の統計力学	高 橋 ( 實 )
東 北 大 (教養) 助 手	山 上 浩 志	11/ 7 ~ 11/ 8	アルカリ金属の多体効果をあらわに 考えたバンド計算	高 田
埼 玉 大 ( 理 ) 助 教 授	佐 宗 哲 郎	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	フェルミオン系の量子モンテ・カルロ・シミュレーション法の開発	今 田
埼 玉 大 (教養) 助 教 授	飛 田 和 男	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週1日)	相關の強い量子多体系の理論的研究	"
信 州 大 ( 理 ) 教 授	勝 木 渥	2/12 ~ 2/13	物性物理学史	外来委

## 一般

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
日 大 (理 工) 教 授	西 尾 成 子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	物性物理学史	外来委
日 大 (理 工) 助 手	植 松 英 穂	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
日 大 (工) 非常勤講師	小 島 智恵子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"
電 通 大 名 誉 教 授	大 山 哲 雄	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (週 1 日)	"	"

## S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 北 大 (科 研) 教 授	I - 1 石 亀 希 男	11/11 ~ 11/22	酸化物ペロブスカイトのプロトン吸 藏と電子構造の研究	S O R
東 北 大 (科 研) 助 手	湯 上 浩 雄	11/11 ~ 11/22	"	"
東 北 大 (理) M. C. 2	斎 藤 真 司	11/11 ~ 11/22	"	"
東 北 大 (理) M. C. 2	佐 多 敦 子	11/11 ~ 11/22	"	"
分 子 研 教 授	I - 2 吉 田 明	11/25 ~ 11/30	窒化物混晶半導体単結晶薄膜の反射 スペクトル測定	"

## S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
豊橋技大 M. C. 2	I - 2 郭 其 新	11/25 ~ 11/30	窒化物混晶半導体単結晶薄膜の反射スペクトル測定	S O R
豊橋技大 M. C. 1	加 藤 治	11/25 ~ 11/30	"	"
東京農工大 ( 工 ) 教 授	I - 3 佐 藤 勝 昭	12/ 2 ~ 12/14	Pt系金属人工格子およびPtMnSbのVUV反射スペクトル	"
東京農工大 ( 工 ) M. C. 2	本 宮 秀 俊	12/ 2 ~ 12/14	"	"
東京農工大 ( 工 ) M. C. 1	喜 嶋 悟	12/ 2 ~ 12/14	"	"
東北大 (科 研) 教 授	I - 4 大 坂 俊 明	1/19 ~ 2/ 1	ルチルおよび稀土類化合物の光学的性質	"
東北大 (科 研) 助 手	伊 師 君 弘	1/19 ~ 2/ 1	"	"
東北大 (科 研) 技 官	薦 谷 勉	1/19 ~ 2/ 1	"	"
東北大 (科 研) 特別研究員	木 村 真 一	1/19 ~ 2/ 1	"	"
東北大 ( 理 ) M. C. 2	荒 井 史 隆	1/19 ~ 2/ 1	"	"
東北大 ( 理 ) M. C. 1	金 井 利 喜	1/19 ~ 2/ 1	"	"

## S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 貢
東 大 ( 工 ) 助 教 授	I - 5 内 田 慎 一	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	3d遷移金属酸化物の光反射スペクトル	S O R
東 大 ( 工 ) D. C. 2	永 崎 洋	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	"	"
東 大 ( 工 ) M. C. 1	玉 作 賢 治	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	"	"
東 大 ( 理 ) D. C. 2	有 馬 孝 尚	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	"	"
東 大 ( 理 ) M. C. 2	糟 谷 将 隆	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (月 2 日)	"	"
東 大 ( 理 ) 教 授	I - 6 小 間 篤	2/17 ~ 2/29	格子非整合ヘテロ成長系の光物性	"
東 大 ( 理 ) 助 教 授	齐 木 幸 一 朗	2/17 ~ 2/29	"	"
東 大 ( 理 ) 助 手	多 田 博 一	2/17 ~ 2/29	"	"
東 大 ( 理 ) M. C. 2	中 村 裕 之	2/17 ~ 2/29	"	"
東 北 大 (科 研) 助 教 授	I - 7 服 部 武 志	3/ 2 ~ 3/14	$\beta$ -アルミナの吸収スペクトル	"
東 北 大 (科 研) 技 官	千 葉 裕 輝	3/ 2 ~ 3/14	"	"

## S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (理) D. C. 2	I-7 河原田 至	3/2 ~ 3/14	$\beta$ -アルミナの吸収スペクトル	SOR
東北大 (理) M. C. 1	八嶋俊一	3/2 ~ 3/14	"	"
早稲田大 (理工) 教 授	I-8 大木義路	12/16 ~ 12/21	高純度シリカガラスの真空紫外域における光吸収および発光の測定	"
早稲田大 (理工) 助 教 授	宗田孝之	12/16 ~ 12/21	"	"
早稲田大 (理工) 助 手	田中康寛	12/16 ~ 12/21	"	"
早稲田大 (理工) D. C. 2	西川宏之	12/16 ~ 12/21	"	"
早稲田大 (理工) M. C. 2	中村龍太	12/16 ~ 12/21	"	"
東 大 (教養) 助 手	I-9 江尻有郷	3/16 ~ 3/21 3/23 ~ 3/29	絶縁体イオン結晶量子井戸構造の光 物性	"
東 大 (教養) 助 手	波田野 彰	3/16 ~ 3/21 3/23 ~ 3/29	"	"
神戸大 (教育) 助 教 授	中川和道	3/16 ~ 3/28	"	"
東北大 (電通研) 教 授	II-1 宮本信雄	12/2 ~ 12/3	不活性化半導体表面の放射光照射効 果の研究	"

## S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東北大 (電通研) 助教授	II-1 庭野道夫	11/25 ~ 12/7	不活性化半導体表面の放射光照射効果の研究	S O R
東北大 (電通研) 助手	高桑雄二	12/2 ~ 12/7	"	"
東北大 (工) M. C. 2	石橋裕	11/25 ~ 12/7	"	"
東北大 (工) M. C. 2	武田裕紀	11/25 ~ 12/7	"	"
東北大 (工) M. C. 1	栗田一成	11/25 ~ 12/7	"	"
群馬大 (教育) 助教授	II-2 奥沢誠	12/9 ~ 12/14	浅い内殻準位線サテライトの共鳴光電子放出実験	"
群馬大 (教育) 教 授	菅原英直	12/9 ~ 12/14	"	"
群馬大 (教育) M. C. 2	佐藤信幸	12/9 ~ 12/14	"	"
大阪府立大 (工) 講 師	曾田一雄	12/9 ~ 12/14	"	"
東 大 (理) 助教授	II-3 藤森淳	1/20 ~ 2/1	CeRh <sub>3</sub> B <sub>2</sub> のCe 4d内殻X線吸収の偏光依存性	"
東 大 (理) 助 手	生天目博文	1/20 ~ 2/1	"	"

## S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
東 大 ( 理 ) D. C. 2	II-3 野 原 進 一	1/20 ~ 2/ 1	CeRh <sub>3</sub> B <sub>2</sub> の Ce 4d内殻X線吸収の偏光依存性	S O R
東 大 ( 理 ) M. C. 2	溝 川 貴 司	1/20 ~ 2/ 1	"	"
東 大 ( 理 ) M. C. 1	長 谷 泉	1/20 ~ 2/ 1	"	"
東京理科大 ( 理 ) 教 授	三 須 明	1/20 ~ 2/ 1	"	"
東京理科大 ( 理 ) D. C. 2	山 口 克 彦	1/20 ~ 2/ 1	"	"
東京理科大 ( 理 ) D. C. 1	中 村 元 彦	1/20 ~ 2/ 1	"	"
広 島 大 ( 理 ) 教 授	II-4 谷 口 雅 樹	2/10 ~ 2/16	半磁性半導体の光電子分光実験	"
広 島 大 ( 理 ) M. C. 2	横 山 浩 一	2/ 2 ~ 2/16	"	"
広 島 大 ( 理 ) M. C. 1	西 原 克 浩	2/ 2 ~ 2/16	"	"
広 島 大 ( 理 ) M. C. 1	八 方 直 久	2/ 2 ~ 2/16	"	"
徳山高専 助 教 授	植 田 義 文	2/ 2 ~ 2/16	"	"

## S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
吳高専 講 師	II-4 小山通栄	2/2 ~ 2/16	半磁性半導体の光電子分光実験	S O R
大阪府立大 (工) 教 授	II-5 会田修	2/16 ~ 2/19	共鳴光電子分光による希土類化合物 の4f電子状態の研究	"
大阪府立大 (工) 助 教 授	市川公一	2/24 ~ 3/1	"	"
大阪府立大 (工) 講 師	曾田一雄	2/16 ~ 3/1	"	"
大阪府立大 (工) 助 手	田中智	2/18 ~ 2/26	"	"
大阪府立大 (工) D. C. 1	梅原隆	2/16 ~ 3/1	"	"
大阪府立大 (工) M. C. 1	松本雅美	2/16 ~ 3/1	"	"
東北大 (科 研) 教 授	II-6 池沢幹彦	3/1 ~ 3/14	稀土類四硼化物の光電子スペクトル	"
東北大 (科 研) 特別研究員	木村真一	3/1 ~ 3/14	"	"
東北大 (理) M. C. 2	荒井史隆	3/1 ~ 3/14	"	"
東北大 (理) M. C. 1	金井利喜	3/1 ~ 3/14	"	"

## S O R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関 係 所 員
東京農工大 ( 工 ) 助 教 授	II-7 須 田 良 幸	3/16 ~ 3/28	光電子分光法による多孔質Siの電子構造に関する研究	S O R
東京農工大 ( 工 ) 教 授	越 田 信 義	3/16 ~ 3/28	"	"
東京農工大 ( 工 ) 助 手	小 山 秀 樹	3/16 ~ 3/28	"	"
東京農工大 ( 工 ) M. C. 1	皆 川 康 幸	3/16 ~ 3/28	"	"
基督教大 (教 養) 講 師	V-1 高 倉 かほる	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4週間)	単色真空紫外線による生物影響の分子的機構	"
基督教大 (教 養) 教 授	石 川 光 男	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4週間)	"	"
基督教大 (教 養) M. C. 1	藤 田 栄一郎	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4週間)	"	"
北 大 (獣 医) 助 教 授	桑 原 幹 典	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"
総 合 研 究 大 学 院 大 D. C. 1	渡 邊 立 子	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4週間)	"	"
総 合 研 究 大 学 院 大 D. C. 1	安 藤 ひろ美	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (4週間)	"	"
大阪府立大 (研究所) 講 師	恵 恒 雄	10/1 ~ 3/31 上記期間中 (5泊 6日・1回)	"	"

S

O

R

所 属	氏 名	期 間	研 究 題 目	関係 所員
立 教 大 ( 理 ) 教 授	V-1 檜 枝 光太郎	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 ( 4 週間)	単色真空紫外線による生物影響の分子的機構	S O R
立 教 大 ( 理 ) 教 授	松 平 賴 曜	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 ( 4 週間)	"	"
立 教 大 ( 理 ) M. C. 2	山 田 裕 之	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 ( 4 週間)	"	"
立 教 大 ( 理 ) M. C. 1	梅 澤 直 司	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 ( 4 週間)	"	"
神奈川歯大 非常勤講師	峯 岸 安津子	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 ( 4 週間)	"	"
高 工 研 助 教 授	小 林 克 己	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (1泊 2日・1回)	"	"
基 生 研 助 手	渡 辺 正 勝	10/ 1 ~ 3/31 上記期間中 (3泊 4日・1回)	"	"
大阪教育大 (教 育) 教 授	V-2 稻 垣 卓	2/ 9 ~ 2/16	気体の真空紫外域光熱変換過程の研究	"
電 通 大 助 教 授	豊 田 太 郎	2/10 ~ 2/15	"	"
電 通 大 M. C. 1	国 生 泰 寛	2/10 ~ 2/15	"	"

## 平成4年度前期共同利用の公募について

### 1. 公募事項 (別紙要項参照)

(1) 留学研究員・共同利用 (平成4年4月～平成4年9月実施分)

(2) 短期研究会 (平成4年4月～平成4年9月実施分)

2. 申請資格：国、公、私立大学及び国、公立研究機関の教官、研究者並びにこれに準ずる者。

3. 申請方法：(1) 共同利用については、外来研究員申請書を提出のこと。

ただし、①軌道放射物性研究施設の共同利用については、申請方法が異なる  
ので44～45ページを参照のうえ、申請のこと。

②中性子回折装置の共同利用については、平成3年11月に別途公募  
します。

(2) 短期研究会については、提案代表者より短期研究会申請書を提出のこと。

4. 申請期限：平成3年12月21日（土）厳守

5. 申込み先：〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号

東京大学物性研究所 総務課 共同利用掛

電話(03)3478-6811 内線5031, 5032

6. 審査：研究課題の採否、所要経費の査定等は共同利用施設専門委員会において行い、  
教授会で決定する。

7. 採否の判定：平成4年3月中旬

8. 研究報告：共同利用研究（共同利用及び留学研究員）については1期（半年）ごとに実施  
報告書（所定の様式による）を提出のこと。また、共同利用研究によって得た  
成果の論文の別刷2部を総務課共同利用掛あて提出のこと。

9. 宿泊施設：(1) 東京大学物性研究所共同利用研究員宿泊施設が利用できる。

(2) 軌道放射物性研究施設の共同利用については、東京大学原子核研究所共同  
利用研究員宿泊施設が利用できる。

(3) 東海村日本原子力研究所の共同利用については、東京大学工学部共同利用  
研究員宿舎が利用できる。

10. 学生教育研究災害傷害保険の加入：大学院学生は『学生教育研究災害傷害保険』に加入され  
るようご配慮願いたい。

## 外 来 研 究 員 に つ い て

物性研究所においては、共同利用研究業務として、全国物性研究者の研究遂行に資するため、各種研究員制度が設けられています。これら研究員の公募は、半年ごとに行っております。外来研究員制度は個々の申請を検討のうえ実行されておりますが、特別な事情のある場合を除いて、あらかじめ共同利用施設専門委員会の了承を得る建前をとっておりますので、下記ご参照のうえ期日までに応募されるようお願いします。

その他、外来研究員制度の内容あるいは利用する設備等に関してお判りにならないことがあれば、外来研究員等委員会委員長 松岡 正浩（内線5181）までご連絡ください。

なお、留学研究員または共同利用に申請される場合は、事前に必ず利用される研究室等の教官と打ち合わせのうえ申請書を提出してください。

申請書用紙が必要な方は総務課共同利用掛（内線5031、5032）までご請求ください。

### 記

#### 1. 各種研究員

##### a. 客員研究員

- (1) 所外研究者がやや長期にわたって、本所の施設を利用して研究を行う便宜を提供することを目的としております。
- (2) 資格としては、教授、助教授級の研究歴に相当する研究者を対象とします。
- (3) 申請については、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。
- (4) 研究期間は最低1ヶ月とし、6ヶ月を限度としていますが、延長が必要な時は、その都度申請して更新することができます。
- (5) 研究期間中は、常時本所に滞在することを原則とします。
- (6) 居室の供用方については、本所はできるだけ努力します。

##### b. 嘱託研究員

- (1) 所外研究者に本所の研究計画及び共同研究計画の遂行上必要な研究を委嘱することを目的としています。
- (2) 嘱託研究員の委嘱は、本所所員の申請に基づいて、研究計画等を検討のうえ決定します。

##### c. 留学研究員

- (1) 大学、官庁、その他の公的研究機関に在籍する若い研究者に、留学の便宜を提供することを目的とした制度です。
- (2) 資格としては、助手ないし大学院博士課程程度の研究歴に相当する方を対象としています。
- (3) 研究は所員の指導のもとで行います。大学院学生の場合、原則として指導教官を嘱託研究員に委嘱します。

- (4) 申請は別紙（様式1）の申請書を提出してください。（必要な方は直接総務課共同利用掛までご請求ください。）

d. 共 同 利 用

○ 一般の共同利用

- (1) 所外研究者が研究の必要上、本所の施設を利用したい場合、その便宜を提供できるようにしております。

- (2) 共同利用は「共同研究」と「施設利用」の2つの形態に分けられます。共同研究と施設利用では採択率、充足率が異なる場合があります。

また、共同研究、施設利用それぞれに、1年以内に研究を集中して遂行する「短期集中型」の利用形態が設けられています。短期集中型を希望して認められた場合には充足率を高くしますが、その後しばらくの期間、共同利用を見合せていただくことがあります。

- (3) 共同利用をご希望の方は、別紙（様式2）の申請書を提出してください。

○ 軌道放射物性研究施設の共同利用

0.38GeV電子ストーリジング（S O R - R I N G）からの放射光を用いる共同利用実験の申込みについてはマシンタイムの調整を行う必要上、物性研共同利用の正式申込みの以前に下記の要領で物性研軌道放射物性研究施設あて申込んでください。

- (1) 対象となる実験：E S及びS O R - R I N Gからの放射光を利用する実験。

- (2) 実 験 期 間：平成4年4月中旬から平成4年7月中旬までの期間で、利用できるマシンタイムは総計約2.5か月間。ただし、各ビームラインによって多少異なります。

- (3) 利用できる設備：(1) S O R - R I N G第1ビームライン 1M縦分散瀬谷－波岡型直1M縦分散瀬谷－波岡

- (2) S O R - R I N G第2ビームライン 2M縦分散変形ローランド型斜入射分光器、光電子分光測定装置一式

- (3) S O R - R I N G第3ビームライン 変形ワーズワース型直入射分光器

- (4) S O R - R I N G第4ビームライン 平面回折格子型斜入射分光器

- (5) S O R - R I N G第5ビームライン

- (6) S O R - R I N G第1'ビームライン 自由ポート

なお、第3、第4ビームラインでの実験及び準備研究的な実験については、申込み前に当施設に御相談ください。

(4) 申込み要領

- (1) 希望するビームライン
- (2) 申請研究課題
- (3) 申請代表者及び実験参加者、所属・職・氏名
- (4) 実験期間及び実施希望時期
- (5) 実験の目的・意義及び背景（1,000字程度でわかりやすく書いてください。）
- (6) 関連分野における申請者のこれまでの業績（5編以内）
- (7) 実験の方法（800字程度、危険物や超高真空系を汚染する可能性のある物質等を使用する場合は、明示のうえ安全対策の方法を記すこと。）
- (8) 使用装置（持込み機器も含めて）
- (9) 物性研共同利用施設運営費よりの負担を希望する消耗品の種類と費用の概算

上記項目につき記入した申請書のコピー8部（A4サイズ用紙）を下記申込み先あて送付してください。

(5) 申込み先：〒188 東京都田無市緑町3丁目2番1号

東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設

電話（0424）61-4131 内線 328, 307, 346

（「共同利用申込み」と表記のこと）

(6) 申込み期限： 平成3年12月7日（土）必着とします。

(7) 審査：物性研軌道放射物性研究施設運営委員会において審査し、採用された研究課題についてはその実験計画に従い改めて物性研外来研究員申請書及び放射線業務従事承認書を直接総務課共同利用掛（〒106 東京都港区六本木7丁目22番1号 東京大学物性研究所）に提出していただきます。

## 2. 採否決定

上記各種研究員受入れの可否は、共同利用施設専門委員会において、申請された研究計画、研究歴及び所内諸条件を審査検討し、教授会で決定します。

採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」に従って、別紙（様式6）の「放射線業務従事承認書」を提出していただきます。

### 3. 実施報告書

留学研究員及び共同利用で来所の方には、1期（半年）ごとに終了後30日以内に別紙  
（共同研究及び短期集中型の施設利用は様式4、一般の施設利用及び留学研究員は様式5）  
による外来研究員実施報告書を提出していただきます。

### 4. 別刷の提出

外来研究員として来所されて行われた研究に関する論文の別刷2部を必ず総務課共同利用掛に提出してください。また、論文を発表される場合、謝辞の所に東京大学物性研究所の共同利用による旨の文章を入れていただくことを希望します。英文の場合の参考として、次のような例文をあげておきます。

- a) This work was carried out under the Visiting Researcher's Program of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- b) This work was carried out by the joint research in the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.
- c) This work was performed using facilities of the Institute for Solid State Physics, the University of Tokyo.

### 5. 経 費

旅費、滞在費及び研究に要する経費は、個々の申請に基づいて共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。

### 6. そ の 他

- (1) 予算の支出、諸施設の利用、設備の管理等については、関係する所員の指示に従ってください。
- (2) 申請書は、必ず別紙様式のものを使用してください。

## 共同利用施設専門委員会委員

齋藤 軍治	京大(理)	小林 雅通	阪大(理)
三本木 孝	北大(理)	池田 宏信	高エネルギー研
遠藤 康夫	東北大(理)	永田 一清	東工大(理)
小林 俊一	東大(理)	佐藤 正俊	名大(理)
斯波 弘行	東工大(理)	高山 一	筑波大(物理学系)
川村 清	慶應大(理工)	武田 三男	信州大(教養)
山田 耕作	京大(理)	藤田 敏三	広島大(理)
白鳥 紀一	阪大(理)	都 福仁	阪大(理)
巨海 玄道	熊本大(教養)	宮原 恒 显	高エネルギー研
内野倉 國光	東大(工)	花崎 一郎	分子科学研究所
岩澤 康裕	東大(理)	その他物性研所員	

## 短期研究会について

短期研究会は、物性研究上興味深い特定のテーマについて全国の研究者が1～3日間程度研究会を開き、集中的に討議するもので、提案代表者は内容、規模等について関係研究者と十分検討のうえ、申請してください。

### 記

1. 申請方法：代表者は別紙申請書（様式3）を提出してください。
2. 提案理由の説明：提案代表者は、内容、規模等について共同利用施設専門委員会で説明していただきます。
3. 採否決定：共同利用施設専門委員会の審議を経て教授会が決定します。
4. 経費：共同利用施設専門委員会で査定・審査し、教授会の決定に基づき共同利用施設運営費から支出します。
5. 報告書：提案代表者は、研究会終了後すみやかに物性研によりに掲載する研究会報告書を提出してください。執筆に関する要領は別にお知らせします。

## 外 来 研 究 員 等 の 放 射 線 管 理 内 規

(昭和57. 7. 21 制定)

放射線障害予防規程第45条第3項に定める外来研究員等の放射線管理については以下のとおりとする。

### 1. 六本木地区

- (1) 物性研究所放射線管理室（以下「管理室」という。）は、外来研究員等の共同利用申込が承認された時に、その所属する大学又は事業所に対し「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」及び「放射線業務従事承認書」を送付する。
- (2) 外来研究員等は、放射線取扱いに先立って「放射線業務従事承認書」を管理室に提出するものとする。
- (3) 本所の放射線施設及び放射線発生装置等を初めて利用する外来研究員等に対し、当該施設の放射線管理責任者は、放射線取扱いの開始前に放射線発生装置あるいは放射性物質等の安全取扱い、立入記録の記入等についての教育訓練を実施する。
- (4) 放射線管理責任者は、外来研究員等について、フィルムバッジ等の着用の有無を確認し、それ等を持たない場合は、個人被曝線量計を貸与し被曝線量当量を測定し記録するものとする。

### 2. 日本原子力研究所内（東海村）－中性子回折実験装置

中性子回折実験装置等を利用する外来研究員等は、日本原子力研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

### 3. 東大原子核研究所内（田無市）－軌道放射物性研究施設

軌道放射物性研究施設を利用する外来研究員等の放射線管理については、「軌道放射物性研究施設に係る覚書」によって行う。

### 4. 高エネルギー物理学研究所内設置の軌道放射物性研究施設分室を利用する外来研究員等は、高エネルギー物理学研究所で定める放射線管理上の所要手続きをしなければならない。

### 附 則

この内規は、平成元年4月1日から施行する。

## 物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等 の派遣についての了解事項

1. 外来研究員等及び所属機関の責任者は、物性研究所の放射線施設の利用に際して、以下の事項を承諾するものとする。
2. 外来研究員等は、本所放射線障害予防規程及び当該放射線施設の管理内規に従う。
3. 外来研究員等が利用する放射線施設等に係る管理責任（放射線発生装置、放射性物質の安全取扱い、管理区域等の線量当量の測定等の管理）は、物性研究所にあるが、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」等で定める放射線業務従事者としての認可及び個人管理は、外来研究員等の所属機関の責任において行う。

放射線業務従事者としての認可及び個人管理とは、

- (1) 教育訓練（物性研究所における放射線発生装置等の安全取扱いに係る教育訓練は除く）の受講。
  - (2) 血液検査などの健康管理。
  - (3) 個人被曝線量当量の測定。
  - (4) 放射線業務に従事することの可否の判定。
4. 放射線業務に従事する外来研究員等は、所属機関の放射線取扱主任者及び管理責任者が認め る放射線業務従事承認書を、物性研究所放射線管理室に提出する。
  5. 個人被曝線量計（フィルムバッジ等）は、原則として所属機関より持参し、着装して放射線業務に従事するものとする。
- 但し、個人被曝線量計のない場合は、当該施設又は放射線管理室が貸与する。

様式 1

外 来 研 究 員 (留 学 研 究 員) 申 請 書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 \_\_\_\_\_

職名又は学年 \_\_\_\_\_

ふりがな  
氏 名 \_\_\_\_\_

印 \_\_\_\_\_

級号俸 \_\_\_\_\_

級 \_\_\_\_\_

号俸 \_\_\_\_\_

級号俸発令年月日 ( 年 月 日 ) \_\_\_\_\_

申請者の連絡先 電話 \_\_\_\_\_

内線 \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

下記研究計画により留学研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目 \_\_\_\_\_

研究目的 \_\_\_\_\_

○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。

○研究予定期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○放射線業務に従事することの有無。 有 • 無 (○で囲むこと)

希望部門 研究室名 ( 部門 • 研究室 )

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。 していない している

申請している場合の研究室、共通実験室名 ( )

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」(様式6)を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者 (日帰り)

月 日 ~ 月 日 (週・月 日)

月 日 ~ 月 日 (週・月 日)

月 日 ~ 月 日 (週・月 日)

② 宿泊を必要とする申請者

月 日 ~ 月 日 (泊 日) 月 日 ~ 月 日 (泊 日)

月 日 ~ 月 日 (泊 日) 月 日 ~ 月 日 (泊 日)

月 日 ~ 月 日 (泊 日) 月 日 ~ 月 日 (泊 日)

物性研宿泊施設  原子核研宿泊施設  東海村宿泊施設  その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される  されない

利用頻度 : ① 新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。 (回)

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成 年 月 日

申請者の所属長職・氏名

印

様式 2

## 外来研究員（共同利用）申請書

No.

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

所 属 \_\_\_\_\_

職名又は学年 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

印 \_\_\_\_\_

級号俸 \_\_\_\_\_

級 \_\_\_\_\_

号俸 \_\_\_\_\_

級号俸発令年月日（ 年 月 日） \_\_\_\_\_

申請者の連絡先 電話 \_\_\_\_\_

内線 \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

下記研究計画により外来研究員として貴所で研究したいので申請します。

研究題目（グループで研究する場合は代表者名を記入すること。）  
\_\_\_\_\_研究目的（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）  
\_\_\_\_\_○研究の実施計画使用装置方法等詳細に。（グループで研究する場合は代表者のみ記入すること。）  
\_\_\_\_\_

○短期集中型を希望する場合、期間（原則として1年以内）を明記してください。

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

○共同研究・施設利用を希望する。（○で囲むこと）

○放射線業務に従事することの有無。 有 ● 無 ○（○で囲むこと）

希望部門 研究室名（

部門

研究室）

他の研究室、共通実験室への共同利用を同時に申請していますか。

□していない

□している

申請している場合の研究室、共通実験室名（ ）

※ 採択された共同利用研究の中で、放射線施設を利用される方には、「外来研究員等の放射線管理内規」にしたがって、「放射線業務従事承認書」（様式6）を提出していただきます。

① 宿泊を必要としない申請者（日帰り）

月　　日～　　月　　日　　(週・月　　日)

月　　日～　　月　　日　　(週・月　　日)

月　　日～　　月　　日　　(週・月　　日)

② 宿泊を必要とする申請者

月　　日～　　月　　日（泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（泊　　日）

月　　日～　　月　　日（泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（泊　　日）

月　　日～　　月　　日（泊　　日）　　月　　日～　　月　　日（泊　　日）

物性研宿泊施設  原子核研宿泊施設  東海村宿泊施設  その他

③ この共同利用の際、貴所属機関から、鉄道賃、日当、宿泊料が支給されますか。

される  されない

利用頻度： ① 新規 ② 過去5年間何回位利用していますか。（回）

略歴

○大学院学生は学歴を記入のこと。

上記のとおり、申請者が貴研究所において研究に従事することを承諾します。

平成　　年　　月　　日

申請者の所属長職・氏名

印

様式 3

## 短期研究会申請書

平成 年 月 日

東京大学物性研究所長 殿

提案代表者

所 属

職 名

氏 名

(印)

連絡先 電 話

内線

FAX

下記のとおり短期研究会の開催を提案したいので申請します。

### 記

1. 研究会の名称

2. 提案理由

理由書は、400字以上600字まで（B5版横書き）とし、提案理由及び研究会内容がよくわかるように記載してください。

特に物性研で開催することの必要性や意義を明記してください。

3. 開催期間

月 日 ～ 月 日 ( 日間 )

開始時間 \_\_\_\_\_ :

4. 参加予定者数 約 名

5. 希望事項 (○で囲む)

予稿集 : 有 ● 無 ○ その他希望事項

公 開 ● 非公開 ○

6. その他(代表者以外の提案者)

所属機関・職名を記入のこと

7. 旅費の支給を必要とする者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

## 8. その他主要参加者

	氏名	所属	職名
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

平成 年 月 日

外來研究員共同研究実施報告書  
施設利用(短期集中型)

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名



下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間              自 平成 年 月 日  
                            至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または

共通実験室名 \_\_\_\_\_

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏名	職名	所 属 名	備 考

⑤ 研究実施経過(利用機器、利用手段方法、成果、約1,000字(B5版横書き))

⑥ 成果の公表の方法(投稿予定の論文のタイトル、雑誌名など。短期集中型の場合は終了時のみ)

注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

様式 5

平成 年 月 日

外 来 研 究 員 施 設 利 用 実 施 報 告 書  
留 学 研 究 員

東京大学物性研究所長 殿

所 属

職 名

氏 名

印

下記のとおり貴研究所の施設を利用しましたので、報告します。

記

① 研究題目

② 利用期間

自 平成 年 月 日

至 平成 年 月 日

③ 利用研究室または

共同実験室名 \_\_\_\_\_

④ 共同研究者氏名及び所属職名

氏 名	職 名	所 属 名	備 考

⑤ 研究実施経過（利用機器、利用手段方法、成果、約400字（B5版横書き））

注 意

- (1) グループ研究の場合は、代表者が記入のこと。
- (2) 各期終了後30日以内に提出すること。

## 樣式 6

平成 年 月 日

## 放射線業務從事承認書

東京大学物性研究所長 殿

### 機 関 名

### 所 在 地

放射線取扱主任者名

印

所属機関代表者名

印

当機関は、「物性研究所の放射線施設を利用する外来研究員等の派遣についての了解事項」を承諾して、下記の者が貴研究所において放射線業務に従事することを承認しましたのでよろしくお願いします。

なお、下記の者については、当機関において放射線障害防止法、あるいは人事院規則（10-5）等の法規に基づいて放射線業務従事者として管理が行われていることを証明します。

記

(注) この承認書の有効期間は、年度末までです。

## Technical Report of ISSP 新刊リスト

Ser. A.

- No. 2428 Performance of Revolver Undulator at the Photon Factory; Application to Spectroscopy. by Akito Kakizaki, Toyohiko Kinoshita, Ayumi Harasawa, Haruo Ohkuma, T. Ishii, M. Taniguchi, Mikihiko Ikezawa, Kazuo Soda and Shoji Suzuki.
- No. 2429 Effect of Magnetic Fields on Phase Transitions in Reentrant Spin-Glass  $\text{Fe}_x\text{Fn}_{1-x}\text{TiO}_3$ . by Hiroko Aruga Katori, Tsuneaki Goto, Sachio Ebii and Atsuko Ito.
- No. 2430 Magnetic Phase Diagram of Amorphous Fe-RICH  $\text{Fe}_{1-x}\text{Lu}_x$  Alloys. by Tsuneaki Goto, Kazushi Kuroda, Hiroyuki Komatsu and Kazuaki Fukamichi.
- No. 2431 Magnetic Properties and Phase Diagram of Amorphous Fe-Lu Alloys. by Tsuneaki Goto, Kazushi Kuroda, Kazuaki Fukamichi, Hiroyuki Komatsu, Setsu Morimoto and Atsuko Ito.
- No. 2432 Theory of Cu  $2p$  X-ray Emission Spectroscopy in  $\text{CuO}$  and  $\text{La}_2\text{CuO}_4$ . by Satoshi Tanaka, Kozo Okada and Akio Kotani.
- No. 2433 Calculation of Magnetic X-Ray Dichroism in  $4d$   $5d$  Absorption Spectra of Actinides. by Haruhiko Ogasawara, Akio Kotani and Bernard T. Thole.
- No. 2434 Theory of Post-Collision-Interaction Effect in Resonant XES of La Compounds. by Atsushi Mori, Yosuke Kayanuma and Akio Kotani.
- No. 2435 Optimization of Initial State Vector in the Ground State Algorithm of Lattice Fermion Simulations. by Nobuo Furukawa and Masatoshi Imada.
- No. 2436 Phase Separation Curve of  $^3\text{He}-^4\text{He}$  Mixtures under Pressure. by Shinichi Yorozu, Masahiko Hiroi, Hiroshi Fukuyama, Hikota Akimoto, Hidehiko Ishimoto and Shinji Ogawa.

- No. 2437 S=1 Antiferromagnetic Heisenberg Chain with an Anisotropy Breaking Axial Symmetry.  
by Tôru Sakai and Minoru Takahashi.
- No. 2438 Ordering of Ag-O Chains on a Ag(110) Surface Studied by STM. by M. Taniguchi, K. Tanaka, T. Hashizume and T. Sakurai.
- No. 2439 Growth and Properties of Li-deficient Single-Crystals  $\text{LiVO}_2$ . by Humihiko Takei, Masayoshi Koike, Katsuhiro Imai, Hiroshi Sawa and Yasuhiro Iye.
- No. 2440 Correlation Length and Free Energy of S=1/2 XXZ Chain in Magnetic Field. by Minoru Takahashi.
- No. 2441 On the Spin Excitations of High  $T_c$  Oxides. by Hidetoshi Fukuyama.
- No. 2442 Copper Valence Fluctuation in the Organic Conductor  $(\text{dimethyl-DCNQI})_2\text{Cu}$  Studied by X-Ray Photoemission Spectroscopy. by I. H. Inoue, A. Kakizaki, H. Namatame, A. Fujimori, A. Kobayashi, R. Kato and H. Kobayashi.
- No. 2443 Numerical Study of the Hidden Antiferromagnetic Order in the Haldane Phase.  
by Yasuhiro Hatsugai and Mahito Kohmoto.
- No. 2444 Dermination of Metal Adsorbed Surfaces by X-Ray Diffraction. by Toshio Takahashi.
- No. 2445 Rigorous Results for the One Electron Kondo Lattice Model. by Manfred Sigrist, Hirokazu Tsunetsugu and Kazuo Ueda.
- No. 2446 Successive Phase Transitions in Ferromagnetic  $\text{YCo}_3$ . by Tsuneaki Goto, Hiroko Aruga Katori, Toshiro Sakakibara and Masuhiro Yamaguchi.
- No. 2447 Field Induced Transitions in Two-Dimensional Antiferromagnets  $\text{K}_2\text{CoF}_4$  and  $\text{K}_2\text{MnF}_4$  in Ultra-High Magnetic Fields up 150 T. by Tsuneaki Goto, Koichi Nakao, Toshiro Sakakibara, Masayuki Ito and Isao Yamada.

- No. 2448 Electron-Phonon Interaction to Semiconductor Superlattices. by Takuma Tsuchiya and Tsuneya Ando.
- No. 2449 Quantum Point Contacts in Magnetic Fields. by Tsunaya Ando.
- No. 2450 High-Field Magnetization Process of Ising System  $\text{Fe}_x\text{Mn}_{1-x}\text{TiO}_3$ . by Hiroko Aruga Katori, Tsuneaki Goto, Sachiyo Ebii and Atsuko Ito.
- No. 2451 High Field Cyclotron Resonance and the Electron Effective Masses in AlAs. by Noboru Miura, Hiroyuki Yokoi, Junichiro Kono and Satoshi Sasaki.
- No. 2452 Bulk Ferromagnetism in the  $\beta$ -Phase Crystal if the p-Nitrophenyl Nitroxide Radical, by Masafumi Tamura, Yasuhiro Nakazawa, Daisuke Shiomi, Kiyokazu Nozawa, Yuko Hosokoshi, Masayasu Ishikawa, Minoru Takahashi and Minoru Kinoshita.
- No. 2453  $^{51}\text{V}$  Knight Shift and Quadrupole Interaction in the Low Temperature Phase of  $\text{LiO}_2$ . by Jun Kikuchi, Sinsaku Kambe, Hiroshi Yasuoka, Yutaka Ueda, Koukichi Tomimoto and Jun Akimitsu.
- No. 2454 Optimized Structures and Electronic Properties of Alkali Metal(Na, K) Adsorbed Si(001) Surfaces. by Kazuaki Kobayashi, Yoshitada Morikawa, Kiyoyuki Terakura and Stefan Blügel.
- No. 2455 Angle-Resolved Photoemission Study of a Single-Domain Si(001)2x1-K Surface with Synchrotron Radiation: Symmetry and Dispersion of Surface-States. by T. Abukawa, T. Kashiwakura, T. Okane, Y. Sasaki, H. Takahashi, Y. Enta, S. Suzuki, S. Sato, T. Kinoshita, A. Kakizaki, T. Ishii, C. Y. Park, C. W. Yu, K. Sakamoto and T. Sakamoto.
- No. 2456 Multi-Sheet Configuration Space and Fractional Quantum Statistics. by Yasuhiro Hatsugai, Mahito Kohmoto and Yong-Shi Wu.
- No. 2457 Systematic Analysis of Core Photoemission Spectra for Actinide Di-Oxides and

- Rare-Earth Sesqui-Oxides. by Akio Kotani and Takao Yamazaki.
- No. 2458 Charge Transfer Satellites and Multiplet Splitting in X-ray Photoemission Spectra of Late Transition Metal Halides. by Kozo Okada, Akio Kotani and Bernard T. Thole.
- No. 2459 Pressure-Induced Change in  $T_c$  and Hall Coefficient in  $\text{YBa}_2\text{Cu}_4\text{O}_8$ . by Chizuko Murayama, Yasuhiro Iye, Tatsuya Enomoto, Nobuo Môri, Yun Yamada and Takehiko Matsumoto.
- No. 2460 Persistent Spectral Hole-Burning of  $\text{Pr}^{3+}$  ions in Yttria Stabilized Zirconia: A new hole-burning material. by Koichiro Tanaka, Tsuyoshi Okuno, Hiroo Yugami, Mareo Ishigame and Tohru Suemoto.
- No. 2461 Charge Gap, Charge Susceptibility and Spin Correlation in the Hubbard Model on a Square Lattice. by Nobuo Furukawa and Masatoshi Imada.
- No. 2462 Superconductivity in the Multivalley Electron Gas as a Model for the Alkali-Metal-Doped Fullerene  $\text{A}_3\text{C}_{60}$ . by Yasutami Takada.
- No. 2463 Plasmon Mechanism of Superconductivity in the Multivalley Electron Gas. by Yasutami Takada.
- No. 2464 Formation of Hexagonal-Diamond by Room Temperature Compression of Graphite. by Wataru Utsumi and Takehiko Yagi.
- No. 2465 Volume Dependence of the Lower Critical Field in Nuclear-Spin Ordered bcc $^3\text{He}$ . by Hiroshi Fukuyama, Tohru Okamoto, Tsuneo Fukuda, Hikota Akimoto, Hidehiko Ishimoto and Shinji Ogawa.
- No. 2466 Cusp in the Angular Dependence of the Magnetoresistance in  $\text{GaAs}/\text{Al}_x\text{Ga}_{1-x}\text{As}$  Superlattice. by Ryuta Yagi, Yasuhiro Iye, Yoshio Hashimoto, Takahide Odagiri, Hiroyasu Noguchi, Hiroyuki Sakaki and Toshiaki Ikoma.

- No. 2467 Self-Interaction-Corrected Local-Spin-Density-Functional Theory for Strongly Correlated Electron Systems. by Tsuyoshi Miyazaki, Yasushi Ishii and Kiyoyuki Terakura.
- No. 2468 Structure and Electrical Properties of  $\theta$ - and  $\kappa$ -Type BEDT-TSeF Salts with Bromomercurate Anions. by Toshio Naito, Akihito Miyamoto, Hayao Kobayashi, Reizo Kato and Akiko Kobayashi.
- No. 2469 Superconducting Transition of a Grease-Coated Crystal of  $\kappa$ -(BEDT-TTF)<sub>2</sub>Cu [N(CN)<sub>2</sub>] Cl. by Hayao Kobayashi, Kozo Bun, Akihito Miyamoto, Toshio Naito, Reizo Kato, Akiko Kobayashi and Jack M. Williams.
- No. 2470 Resonance Effect in Magnetotransport Anisotropy of the Quasi-One-Dimensional Conductors. by Toshihito Osada, Seiichi Kagoshima and Noboru Miura.
- No. 2471 New Features of the Electronic Phase Transition Observed for Graphite in High Magnetic Fields. by Noboru Miura, Hirosato Ochimizu, Tadashi Takamasu, Sojiro Takeyama and Satoshi Sasaki.
- No. 2472 On the Temperature Dependence of the Hall Resistance in Low Carrier Density Metals. by Ryuta Yagi and Yasuhiro Iye.
- No. 2473 On Magnetic Properties of High T<sub>c</sub> Oxides. by Hidetoshi Fukuyama.
- No. 2474 Correlation between the Pressure-Induced Changes in the Hall Coefficient and T<sub>c</sub> in Superconducting Cuprates. by Chizuko Murayama, Yasuhiro Iye, Tatsuya Enomoto, Nobuo Môri, Yuh Yamada, Takehiko Matsumoto, Yoshimi Kubo, Yuichi Shimakawa and Takashi Manako.

## 編 集 後 記

例年にはない長雨、台風に見舞われた秋もますます深まり、本号がお手元に届く頃には寒さを感じる季節になっていることと思います。

さて、本号では、2年前に東京工業大学へ転出された斯波弘行元所員から物性研究所のあり方について投稿原稿を頂きました。物性研も来年には創立35周年を迎えることになり、いろいろな意味で変革の時期にさしかかっていると思われます。斯波先生のご投稿に所内外からのご意見をお寄せ頂き、物性研だよりがそのような議論の場のひとつとなることを望んでおります。

次号の締切は12月10日です。

高 橋 敏 男

渡 部 俊太郎

